



## タイの損害保険事情

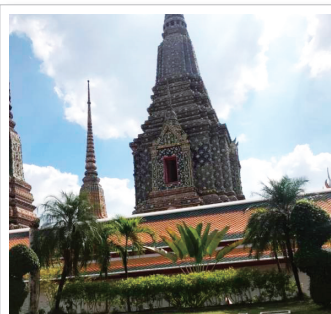
東京海上日動火災保険株式会社 姫路中央支社  
主任 堀内 優子

昨年11月、タイ・バンコクを研修で訪れました。空港を出てまず感じたのは、車の交通量の多さです。交通公共機関が未発達であるタイでは、車道は常に渋滞しています。特に朝夕のラッシュ時の移動にはかなりの時間がかかりました。車が溢れるバンコクの街中ではタクシーを捕まえるのも一苦勞。現地の方は車の間をぐいぐい進んでタクシーを拾いますが、私は全く捕まえられませんでした…。

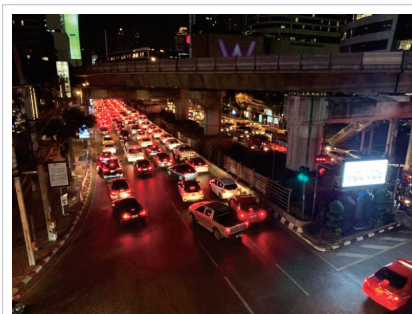
車に関するもう一つ、世界でも有数の事故多発国タイの自動車事故と保険事情についてです。事故が発生したら現状保存し警察を呼びますが、その後、タイでは警察が過失割合を決定します。その割合も①0:100②50:50③100:0の3パターンのみ。日本のように細かく割合を決めることはありません。一方、現場急行サービスは損害保険会社が行います。相手がいる事故の場合、サーベイヤーと呼ばれる調査員を現場に急行させ、警察への状況説明や必要書類の作成等お客様のサポートを行います。損

害保険会社の役割も国によって千差万別だと実感しました。

最後に、タイの洪水リスクについてお話します。それは日本の地震リスクと似ており、タイでは洪水は発生してしまうものと認識されている部分があります。今でも多くの人々の記憶に刻まれているのが2011年の大洪水です。被害総額は45.7億USD(約4,900億円:1ドル=107円の場合)、死者500人超という甚大な被害をもたらし、特に被害の大きかったアユタヤでは、工場や設備が浸水し復興に多くの時間を要しました。私は現地のある工場を訪問し、実際水が迫ってきた水位を見て衝撃を受けました。ただ、どこよりも早く復旧するのだという思いを持ち、工場の再稼働に至った工場責任者のお話を聞き感銘を受けました。災害に完全に備えることは難しいかもしれませんが、しかし、有事の際に少しでもお客様のお役に立つためには何ができるか、損害保険を扱う立場として常に考え向き合っていけないといけないと深く思いました。



バンコク三大寺院の一つのワットポム



タイ・バンコクの渋滞



タイ料理の一つであるタイスキ